

### 7 実践授業の実際

授業の後半を、簡単に説明します。

- (1) 児童から出された多様な解決方法は、(ア)~(エ)のやり方で、全部で5通り取り上げました。

発表の後で(ア)~(ウ)のやり方の似ている点を問いかけてみました。児童は、「平行四辺形を長方形にして面積を求めている」という共通点に気づきました。

- (2) それから、竹ひごで作った平行四辺形を提示し、「こんな変形のしかたもあるんだよ」と(カ)の等積移動のやり方を紹介しました。

- (3) さらに、式の共通点「 $4 \times 6$ 」を取り上げ、平行四辺形のどこの長さを使って「 $4 \times 6$ 」の式を立てたのかを問いかけてみました。児童は「縦 $\times$ 横」の言葉を使いながら、発表カード(紙)の図を使って説明しました。発表カードは提示、保存、再生などに便利です。

ここで「底辺」「高さ」の用語を教え、平行四辺形の求積公式「底辺 $\times$ 高さ」を児童とともに作りました。

- (4) 最後に練習問題を解き、「ふりかえりカード」を記入して本時の学習は終わりました。

### 8 授業の考察

この実践授業で「個を生かすまとめ方」の具備すべき要件が満たされたかどうかについて考察してみます。

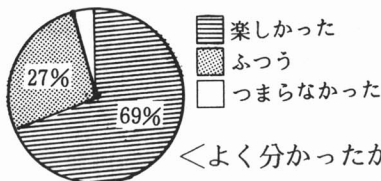
要件の(1)については、児童の多様な解決方法の共通点に着目させることによって、

既習の図形に変形すれば面積を求められること、及び求積公式を導き出すことができたことから、児童の多様な解決方法をとらえ、生かすことができたと考えます。

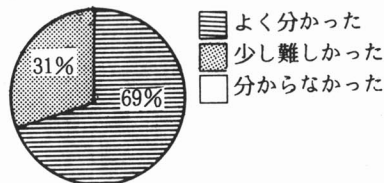
要件の(2)についてですが、「長方形にして計算すればいい」「平行四辺形の面積はやり方がわかるとかんたん」といったような感想が多く見られました。

要件の(3)については、下の図から、児童が学習の成就感、満足感を得たように思われます。

<楽しかったか>



<よく分かったか>



要件の(4)については、練習問題の正答率が高かったことと、求積公式を導くときの考え方をまとめたことから、まとめがその後の学習に生きて働くものと期待されます。

以上のことから「個を生かすまとめ方」の工夫が効果的であったと考えられます。

### 9 おわりに

「まとめ方の分類表」を手がかりとしていくつかのまとめ方を考え、「具備すべき要件」を検討の視点として、実践してみました。

先生方の参考になれば幸いです。